

LA NIGRA FLAGO
Eldonejo:
T. Soejima,
1-26 Nisisinmachi,
Hukuoka, Japan
無政府主義新聞



原水爆禁止世界大会

第二回長崎大会報告

まえがき

世界の良心と、日本津々浦々の平和要求の声をあつめて、長崎でひらかれた第二回原水爆禁止世界大会は、その規模と内容において、日本中のさまざまな平和運動が結集したものであり、それゆえに、日本が今その身の上でうけて苦しんでいる苦しみとだえのすべてを世界への訴えとして、あまこと表現したものであった。

原水爆禁止世界大会の問題は、その表現が示す原水爆禁止に直接関係する調査やその対策、救済と各国への嘆願書、というところまで、それは原水爆禁止の三つの柱といふべきであらう。原水爆禁止世界大会の三日間の内容を、一人はじめ全国七百余の土地をめぐった日本の経済、政治、教育、文化、科学、芸術、労働、平和、自由と平和を帯びながら、私達無政府主義者の教育や道義の問題であり、文化や科学、芸術の任務であると考え、ここに特集して概括的な報告を、すべての平和と自由をねがう国民のから報告を送るものである。(向井孝)

第一日、本会議

けさ衣をきた異色の議長も

(大会第一日) 本会議は世界十五ヶ国三十六名の外国代表をまじえ、国内各府県正副代表など三千余名をあつめて、山高しげり女史の「この調子で進むなら私達は世界平和をもちとることが出来ず、第三回大会をひらく必要のないような悔いのない大会にしよう」という開会あいさつにはじまり、

政府は責任をとれ

日ソ交渉は日本の敗北

主張

去る七月末に再開された日ソ交渉は、予想通り、さしよからソ連側の一方的な要求、MSA協定など一連の日米間に結ばれた条約は、いずれもソ連および中央を仮想敵国としてその前提の下に結ばれたものだ。これらの条約をそのままにしてソ連に友好的な態度を期待するといふのは、よほどおめでたいか、ずうずうしい言草だ。もしこれらの諸条約の再検討を前提として、日ソ間の交渉を行つたなら、事態ははるかに好転していたらう。そのことはモスクワ外交筋からしては、

この意見としても、非公式にもたらされてきた、それが日本の将来にとつて、もつともぞましい解決の仕方だつたのである。日ソ交渉は世論であり、吉田の遺言を聞いた鳩山一派が、人々を取りつてこの世論に便乗した、日ソ交渉開始のこの内幕は、この大事な外交問題が党利党略に利用されたことを物語っている。そして、こんどの早期解決の裏には、鳩山引退の花を日ソ交渉で結んでおごつた、という党内事情があるといふ。

これではいづれの国論の一致とか国民外交などといつても、国民の総力が一つにまとまるはずがなく、こんどの失敗も、この交渉がはじめるから終るまで自民党の権力争いに左右され、十分な準備も一貫した方針もなく進められたことによる可能性をさらによめる結果になつた。

署名は今や七億に

安井事 一般報告

署名の数は原爆投下十二年目の八月六日現在、三千三百万六千三百八、世界の署名は六億五千万をこえ、これ以外アメリカその他の国でも署名運動がおこなわれていくから、それらをすべて合計すると七億に迫っているといふ。

長崎原爆乙女の死に泣く

昨年の広島世界大会で、ひとり「生きた乙女がうまれた」という言葉は人々の厚い愛がこめられて、生きた乙女がうまれた。つた理由はアメリカがなにか発言すると、かならずソ連から押寄せ、小笠原その他の軍事基地問題をもちだされヤブヘビになることをおそれたからである。

と涙に眼をうるませて結ぶとき、その壇上の被爆者代表席にいた長崎原爆乙女の会のひとりと、こみあげる喝采をおさえず泣ききりて満堂にしのび泣く声が満ちあふれた。

と涙に眼をうるませて結ぶとき、その壇上の被爆者代表席にいた長崎原爆乙女の会のひとりと、こみあげる喝采をおさえず泣ききりて満堂にしのび泣く声が満ちあふれた。

米国は原水爆を五千個

午後、「基調報告」は原水爆禁止運動にからまる諸問題を明らかにしようといふ。まず平野義太郎(日本平和委員会)氏は、

声なき人の声を

ついで自身も右眼を失った被害者である、森滝市郎(広島教授)氏は「広島で二十万、長崎で七万の生命をいじめるにうづたおそろしい原爆は、

その為に私達はここへ集つた

つづく藤田太郎(総評議長)の報告のあと、

「私達の声は更に強められなければならない。七月に行われた軍備縮小委員会は世論の圧力で開かれたことを考えて下さい。これは成功しなかつたが、失敗を表明することによって、世論の圧力によって、今以後の世論の圧力によって、成功させなければならない。最近ヨーロッパでも病気が出ています。各国人民は外交官や政府要人のいさめ態度がゆるぎなくなっています。どんな人も核兵器の脅威からのがれることはできません。私達はいつまでもこの運動を成功させなければならない。そして重要なことは、世論の前進にはどんな政府も抵抗できないということです。」

カラスはハトになる

許 広平夫人

第一日

つづく許広平女史は中国を代表して、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

原水爆禁止と軍備縮小について

第一分科会

議長に平野義太郎、河崎不外、三氏をえらび、助言者として、高橋(軍事評論家)、守屋典郎(経済学)、今中次郎(政治学)などをむかえて

原水爆実験阻止のために

第二分科会

議長に山花秀雄、野々宮初枝、ソローノフ氏外十名をえらび、森田運吉委員長から助言者会議討論の内容として

原子力

平和利用について

第三分科会

議長に竹内元市市長外三氏、助言者に服部(東大)、山田(名大)、森田(九大)、有山(名大)、佐久間(大友)の五氏をむかえて

原水爆被害の真相と被害者救援について

第四分科会

議長に山崎しげりほか五氏、助言者に野村信男(東大)、調栗助(長崎医大)、久保義敏(大友)をむかえて六分科会中もつとも注目すべきは、この間に開かれた一時、

平和運動について

第五分科会

議長に吉田法晴氏ほか五氏、助言者に神崎清ほか三氏をむかえて

河野一郎と

いふ男

東京の第一国立病院といふ、そのまじり、設備も料金も、あつて庶民の愛用する病院であつたが、これを民間に松げ、という噂がひろまつた。

われわれはなぜ

天皇制を否定するか

久 保 讓

三十年前の話である。後兵制度のあつた頃、兵役に服したのも、眼なかつたものも呼ばれて、スタンズを意味した。

それが大きな力をもつて、そのまで推進させねばならぬ。と報告ののち、アメリカのうちに真摯な討論がとりかわされ、

アナキストの文学 3

安成二郎の短歌

秋
山
清

豊葦原瑞穂国に生れ来て
米が食えぬとは
嘘のような話

歌集「貧乏と恋」に下っているこの有名な歌は啄木の「百姓の冬くは酒を止めしというもつと困らば何をやめらるむ」と並べられるる強いて比較すれば前者はやや観念的であり、内政的であり、それなりに具体性と現実性において啄木よりも弱い。これは安成二郎の歌の特徴で、そこから自嘲的な彼の歌の滑稽味が生れてくる。

妻よ、無限の生活力を有つ如きお前のからだを
経済組織と

貧乏こそ悲しけれ
ある夜、金を拾ひしが一
夢もいやくなりにけるかな
買えなくなりて
己むなく止すは腹立たし
煙草をやめんと思ひ立ちにき
どうしても食つて
行けなくなりまして

盗みましたと泥棒がいう。これらの歌の基調が社会主義・アナキズムにあつて、現実に対する批判の目かどをいっていることはおどけてみせる歌の調子となつてはらに、かえつて辛らつなものがある。しかも歌の表面には鋭さや反抗も影をうすめてさへみえる。したがつて物足らなさを弱さといつたのもさうから生じてゐる。それは一つは自由律的な口語短歌の形式とも關係するところがあるとおもわれる。口語自由律短歌の提唱は彼より以前にも以降にもあり、後のプロレタリア短歌から詩への解消にその究極をみるが、それらのこととあまり關係なく、彼自身の生來の自由さに彼の短歌はびつたりしてゐる。

思つに、啄木が歌は悲しい玩具だといつた以上に、安成二郎は自暉と現実生活とのギャップを、手すさびの歌によつてなぐさめ埋めるという作歌態度が彼にはつきまとつてゐる。また、あるいはそのことで、彼は天性の歌人といえるかもしれない。

「チエホフの小説をよめば ロシヤには沢山 自分のやうなくじなしいがた」といふ。このような自嘲の、その自覺のうしろにほんとの安成二郎がいるように思われる。短歌を一生の仕事として取組んだ齊藤茂吉のような人と、その点は全くちがつた歌人である。生活のすさびとして、又は安全弁として彼の歌があつたのである。だから歌に、このように現われる安成二郎といふものの、その存在と彼が青春から壮年をすくめてき

た日本の時代というものを私たちは不可分にとらえてみる必要があるだろう。

歌を忘れない以上に、真摯なものが色あせない。

「一生懸命この小さな家の幸福

しかし、歌人安成二郎は明治大正昭和の短歌の歴史から忘れてしまえるものではない。啄木や栗葉のようなインテリゲンチヤとしての若々しい誇らしげな面をほとんど見せることなく、もつと庶民の中に沈潜し、自分の生活の居場所のために働けり少し疲れたり」

このような誠実な歌を書くことのできる歌人が他にあらうか。わずかに歌の調子はちがうけれど、若くして死んだアララギの松倉米吉に共通するものが認められるなだけではないかと思う。

「歌人」などという言葉のロマンチックなひびきから遠い人はない。貧乏くさくさ意気地なく見え、だがそれは見えながら、いつまでも短土喉衰果がそうであつたように、彼もその後、文語定形の短歌をつくるようになった。大正の七、八年頃の作品がすでにそうであり、昭和十三年にわずか十八八部し

起て青年諸君！

徴兵は人殺しの強制

西独が七月七日議會で徵兵法案を通過せむ。遠い外国のことだと思つて安閑としていたら大間違った。二百七十票對百六十六という少しの差だ、しかも二十票の棄権があつた。

タネになると思へばソ連もアメリカもすぐ原子兵器を持ち出して、他国が砂漠になつても、無この民がいくら死傷しても平気で他国民のギセイによつて自国の勢力を張つてゐる。

日本も還からず反動政治家共が強引に憲法を改悪して或は「防衛」にこじつけて強制徴兵まで押し通すだろう。青年諸君の覚悟はいいか？人を殺し、文化を破壊する軍備と戦争にはどこまでも反対すべきだ。世界のフロレタリアの利害は共通だ「一人への不正は

そのそはつえを喰つて第二に戦線へ驅り立てられるのは青年である。諸君が軍服に手を通し、銃を渡されたが最後両親とも恋人とも再会はまず不可能になるのだ。あの恐ろしい戦場で何のうらみも無い外国の青年と命のやりとりをすることになるのだ。

万人への不正である』西独の青年も日本の青年も同じく人間であり青年である。彼らの運命はやがて我々の運命である。青年の敵、人類の敵、アデナウアー西独首相を葬れ！奴は日本の鳩山や吉田と同じくアメリカの資本家帝国主義のドレイである。そして同時にソ連とその衛星国の徴兵制と軍備と共に世界の平和を乱す上には何ら差別はないから同罪だ。

しかし、彼ら人類世界のダニ、社会の平和と自由を脅かす暴力団なる軍国主義者の中心人物は極めて少数の不頼達の集団であつて、ソ連とアメリカの支配階級から尻押しかれて国民からしほり取つた税金で武器を手に入れ、世界のどこか（最近ではエチオピアとその附近）で紛争が起こればすぐ軍事行動に出ようとして待ちかまえてゐる。

そして小国間の小せりのあいでも

旧日本の「皇」軍は実は強盗強姦や放だいの文字通りの「賊軍」であつた。この次の戦争は瞬間に勝敗の決する原子力戦だからそんな暇もないのだ。ただ上官共は安全地帯にかくれていて、もつと旨い汁をすうだつう。そして「正義」とか「愛国」という詐欺の看板で無垢純情の青年を扇動するのだ。

今こそ日本の青年はこんな手に再び乗らぬ様用心せねばならぬ、そして、他人を殺すことは如何な理由でも人間最大の罪惡であるから、たとえ「徴兵忌避」の法律で投獄されても、むしろそれは強盗殺人に味方しなかつたしるじとして誇るべき名誉と信すべきである。又もし諸君が幸にして外国へ逃げ出す手段が見つかれば世界は広いのだ、諸君の同情者は至る所で諸君を日本官憲の追捕の手から守つてくれるのだ。今日でさえ日本政

か刷らなかつたという歌集「夜知
麻多」の作品は、客観平明な文語
調になっている。そこには老いの
軍思想の健在を見せてくれた。

安成二郎（明治二十一年九月秋田県に生る。大館中学中退。「交戦軍」に詩を発表。四一年「新声」に歌を投ず。大正元年大杉栄組の「近代思想」同人となる。大正七年岡田道一、共野爾々、雅子と春草會を結ぶ。大杉栄全集の編纂に携わる。初刊初頭「雲

そして戦後、昭和二十一年六月に於て「平民新聞」の第一号に天皇にありと思ひし日本の主権が

一 銀座にて

術と自由の覇者となる。昭和六年「美奈加美」を創刊主宰。この間二六 読売、毎日、各紙に記者たり。昭和四年以降定型歌をつくる。

世界旅券

世界市民第一号のゲリー・デウィス君は自分の設立した「連合世界奉仕機関」UWSSAをニューヨークに置き、そこから世界市民登録をすませた人には（登録はクロハタ発行所でも取扱つてゐる）「世界パスポート」を発行してゐる。現にデウィスは今年四月自製のその旅券で印度へ渡つて、南インドのバンガロールで「ウァリ

共を敵とほして掌々と世界市民の權利を主張し、あらゆる社会的不正不義と敢然死をかけて決斗する勇氣をもて、諸君の宣言の前に途をふさぎ得る何ものも無いのだ。

このケチくさい極東の小列島を局限つて広い世界へ出てゆく用意としてはもちろん世界共通語エスペ란antoの習得（半年で充分）と何か社会に有用な技術を身につけ

「ユ」といふ世界市民誌を出している。もちろんインドは彼の旅券を合法有効と認めて入国させたのである。その他、彼れがその『世界旅客』の見本を国連と各国政府に送つて承認を要求したのに對し各國はこれを一つの新しい実績と認めざるを得なくなつてゐる。エカワドル大使はそれに回答して『エカワドル大使は常に外国難民や無国籍者の旅行を助け、協力して来たのである。貴下の興味ある着想と要求に對し個人の身分を証明する旅行用書類として受理するものである』と声明した、この既成事実には次いでラオス全權も認め同様の意味の賛成回答を送つた。

さあ日本の青年諸君。もし君らが『世界市民登録票』を入手してそのカードに記入された君の名と住所、生年月日等がバリー本部に通達されると、諸君は必要に應じつてもど國籍を捨てて世界市民になる。そして至る處で同志に出逢ひ、一見して十年の友のように相助け國境なく軍備なく税金も法律も監獄もない自由平等の新世界を開拓してゆく、実に現代に生を享けた青年としてこれ程愉快な事業が他にあるか？そして世界至る處で權力の不正をみつつけ次第「非暴力の反逆」で挑みかかつて敵を倒すまで敢斗するのでだ。「世界市民」の宣言によつて、ガンヂーの残した教えの通りハンスト、座り込み、ストライキ、サボターージュ、ピケツト、ボイコツト等一切武器と暴力を用いないでも、原爆に敗けない力が正義にめざめた平和手段から湧き出してくるのでだ。

又、もし政府の暴漢によつて捕われて投獄されたらその時はよろこべ、全世界幾百万の君の仲間の世界市民共和国の人民は諸君の皆

後にあつてあらゆる方法で諸君の解放を政府に迫る、そして諸君の勇敢な行爲は續々それに影響する

年が出て政府は事実徴兵の目的を達し得なくなるのだ。このように「自分の良心が許さないから」の軍務には服しない」という主張を持つ者を「良心の反抗者」(コンシヤス・オブコンチー、略してC・O、又はコンチーという)。

る。自分の生命をすてても戦争とその原因なる社会の不正に反逆する美しい反逆児である。同時に、その半面はもし自分の生命が社会

何時でも提供するだけの覚悟がなくてはならぬ。危篤の病人を救ふために血液を与えたり、新藥の人体試験に喜んで心じたC・O・Hに欧米に沢山の先例がある。

下劣な権力主義者や、野ばんな軍国主義の暴徒を屈服せしめるには彼らの常用手段の暴力や武力で対抗するのでは永久に果てしのない慘辱が続くのであるから、今世紀限りの青年は團結して暴力を否定し公明正大な平和自由の目的に致した「非暴力の抵抗」をもつて最後の目的を貫徹し、世界同胞の人類新社会を建設するまで熱烈な人類愛と明哲な科学的理智を運用して鋭い批評をもつて現時まだ世界に横行するブルジョア民主主義と全主義の異つて権力内土金主義と

正しい無権力主義の自由共產制の新社会へ推進せねばならぬ、そして今日こそ世界青年が手をとつてその方向へ猛進すべき絶好の時代の到来しつつあるのだ。

(ヤマガ)

お知らせ

十一号はごらんの通り第二回は原水爆禁止世界大会報告号となりましたが都合で、報告の中に別項が掲載できませんので、十二号には、特別記事として、

☆基地問題

☆沖縄問題

☆原爆被害者救

援問題

なことを発表する予定です。

編集局

值
段
(8)

杉
桂
子

『いつたにどうしたと。』
カネのどこまでもおだやかな調子には、幼児をあやしやすかつ折のずるさがあったが、それでも千代は簡単に「おどき」がうつり、哀

『べんになつても着物なんぞすぐに派手になつてしまふ。毎年一枚づつでも年に合うたものを作つてもうた方がよかる。』とくり返しくり返し言つた。たつた一人の娘に、嫁入仕度もしてやれない不申妻な事を悔やみ

大ネはたまつていた。
『おつ母さんちも兄ちゃんも言うたじゃないな。』
母と兄とが目の前で、そんな約束はしなかつたと言ひでもしたように、千代はまたいきり立つた。
『そりや言つた。それで、どうしてもしるなら何とかせしやと願ひ持と、あたり前な借金をしてでも果すべき総領の義務を、何一つしよつとせす、恥じ入る様子もない清一夫婦へのうらみが重つて、嫁人日が来ててもカネの胸はなかなか晴れなかつたが、先々いくらかでも作つてやれる当が出来たので、千代をなぐさめるのこともあつた。

いよるたい』

カネも荒い声で言いかえした。が心の中では千代がとんでもない事を言い出したと、改めてびつくりしていた。

千代を嫁にやる時、直幸が結婚式もごく内輪にしたいから、何も

りが出て、カネの口舌はぐどくなつた。

千代はよそ行き顔ですなおになつていた。だが古い羽二重の紋附を前下りに着て、十八で嫁に來た時のものだという丸帯を、おぶくぐにまきつけているカネの姿

代は風呂敷つみだけで嫁いだ。結婚簡素化運動とやらで、村の公民館には三十万円とか四十万円とか噂されている振袖の式服が備えつけられ、もう留袖の紋附を着る花嫁は居なくなつた。たとえ新しくつた柄を、毎年一枚ずつ作つてもうつとほつが……』

調にもせよ、裾襷様の留袖という花嫁姿は、貧相で見られないほどと世間が取沙汰するので、無理のきく家では振袖をつくるし、出来ない処では公民館の備品を利用する。式服を着たまま寝床に入る嫁さんもあるとかで、豪華な振袖もよく見ると天分よれている。昔

カネは言う度に、すっかりその気になつてしまつたつたが、千代はまるで反対だつた。

米にしる麦にしる、販売代金は毎期、肥料代、農具代、税金と、支払つてしまつとシヤツ一枚買つほどのゆとりもない。腰差でさへやぶれるまで賣つてもらつた事

ない力ねだし、毎年着物を二枚つ
つなどと、兄夫婦にそんな金も氣
持もない事を、身にしみてしつて
いるはずの母が、何で兄夫婦のお

代は母の力ネが、兄となれあい
千代の不満をおさえようとして

た何とか言いぬけて、結局は何
くれなひのだと見とおし、心の
では兄よりむしろ母をにくみな
ら、それでも晴れの花嫁姿だか
ら、にこやかに素直にうなづい
みせたのだつた。

千代は、母のだまがすような

こなで声をきいてゐると、結婚
時の、そのにくしみがよみがえ
て来た。

——ねじははめ。——

千代は舌うちをしたい気持で

土間つづきで大きな掘附戸棚
かけにある炊事場から、兄嫁の
子が出て来て、千代の方を見は
たが、金沢もせずそのまま裏口
から出て行つた。日頃からきよく
話かけてはくれない房子だつた
ら、普通なら氣にするやうになら

のだから、今日は、上習のあるがしりした後姿を見送りながら干支はすうんと寒気がした。

…編輯後記…

向井君が、第三回原水爆禁止

この十二号にこの大会の報告
相当量まとめることに話合が
出たので二日ほど印刷を遅
らせることにしたのであつた
が、昨日は印刷所に原稿が
渡せず、結局四日遅れるこ
とになった。

暑さは一応は九号台風で吹き
 込んだようだ。約一ヶ月続いた猛
 も秋風に早変りした感じである。当
 編輯局の未整理箱に相当量保
 っていた原稿も、残つたものは特
 期遅れになつたものなど数点で
 する。寄稿同志諸君も、夏休は一
 すんだこととして貰いたい。

前号發表した「讀者の聲」欄は一面から三面までつづいた世界大衆會報告のため今度は見合せた。次号からのことにする。讀者諸君の御投稿を乞ふ。 八、二〇朝

福岡市西新町一丁目
二六番地
電話福岡④五八四一
編輯兼發行人 副島辰巳